

いずみさの昔と今 第371回

「政基公旅引付」にみる秋

今現在、秋といえば「食欲の秋」「読書の秋」「芸術の秋」といった、さまざまなものが語られます。では、昔の人にとっての秋とはどのようなものだったのでしょうか。

「政基公旅引付」の中には、日根荘の秋の様子が描かれています。今回はその中から麦の種まき、亥の子、紅葉の3つの記述を紹介します。

まずは麦の種まきです。文亀元(1501)年10月上旬の記事では、年貢を納めず逃散した日根野村西方の百姓がこっそりと麦の種まきをしに來たため、政基の部下らが追い払ったという記述が見えます。これに先立ち9月下旬から10月上旬の記事には年貢の納入が見えます。例えば文亀2年の入山田村(現在の大木・土丸地区)では、10月3日に船淵村、5日に槌丸村、11日に大木村、13日に菖蒲村の年貢が納められています。このように民衆にとっての秋は、年貢を納め、新たな穀物である麦の種まきを行う季節でした。

次に亥の子です。この行事は

今ではあまり馴染みがないかもしれませんが、10月最初の亥の日亥の刻に、収穫したばかりの穀物をついた餅を食べる行事です。平安時代に宮廷で始まり、中世には民間で豊作を祝う行事としても行われていたようです。政基の記述をみると、文亀元年の記事では餅のようなものは食べつつも亥の子行事全体は簡略化して行ったことが、文亀2年の記事でも行事を簡略化して行ったことがそれぞれ記されています。更に文亀3年と永正元(1504)年の記事では行事そのものを行わなかったと明記されています。政基は節句などの他の行事と比べると明らかに力を入れておらず、亥の子をあまり重要なものと考えていなかったのかもしれない。

最後に紅葉です。文亀2年10月8日条には「紅葉の興を催す」と記されています。具体的に何をしたかは記されていませんが、紅葉の鑑賞をしつつ、宴会を開いたり和歌や漢詩などを作ったりしたのかもしれない。政基が入山田村に來たときには山の景色を褒めている記述

があり、紅葉の鑑賞は一つの楽しみだったのでしょう。また文亀元年9月晦日条には「あすも猶風に落葉を吹き立ててけふ行秋の面がはりますな(明日もまた風が吹いて落葉が舞い、今日去る秋の景色を変えてしまうのであろうが、どうか変わらないでほしい)」と、10月11日条には前夜の強風で犬鳴山の紅葉が散ってしまったことを記したうえで、「ちりはててもとの青葉となるいろの秋はいつちにいぬなきのやま(散ってしまった紅葉はいずれ青い葉に戻るでしょうが、犬鳴山の秋はいつたいどこにいつてしまったのでしょうか)」とそれぞれ和歌を詠んでいます。紅葉が散り吹かれていく様は、秋が去ることを示す寂しいものと受け取られていたのでしょうか。

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日(いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館)
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

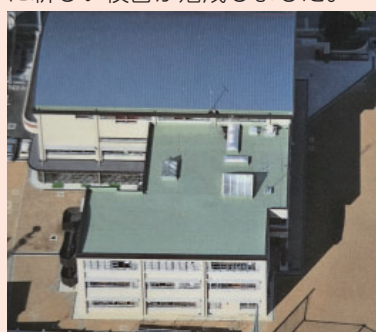
泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

②9学校シリーズ(9) 上之郷小学校



▲昭和30年ごろの上之郷小学校。上之郷小学校は明治6年に創立されました。

▼平成3年の空撮写真。平成2年に新しい校舎が落成しました。



▲現在の上之郷小学校の校舎。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！